



ICOMOS Japan

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

プレスリリース

解禁日時：2022年1月28日（金）

日本イコモス賞 2021 受賞者

日本イコモス賞・日本イコモス奨励賞 選考委員会

「白川郷荻町集落の自然環境を守る会」

「世界遺産集落の半世紀にわたる創造的な保存活用の活動」

「昭和女子大学 国際文化研究所」

「ベトナムの町並み保存支援と日本の町並み保存団体等との交流促進等長年にわたる文化財保存国際協力活動」

「第16回 DOCOMOMO 国際会議 2020 東京 実行委員会」

「近現代建築遺産保存活動におけるコロナ禍のもとでの国際会議の実施」

（順不同・応募受付順）

今年度の授賞にあたっての基本的考え方

2021年度の日本イコモス賞・日本イコモス奨励賞の発表にあたり、今年度の選考についての基本的考え方をご説明させていただきます。

昨年来の深刻なコロナ禍が続く中で、文化遺産についての活動も大きな困難に直面して参りました。国際的活動はもちろんのこと、国内における研究・教育・広報活動なども、中止あるいはリモートでの対応を余儀なくされました。こうした未曾有の世界的状況を踏まえ、今年度の賞の選考にあたりましては、長年の国内外での継続的な活動をコロナ禍のもとでも着実に積み重ねられた実績、あるいはリモートにより大きな国際会議を実施し成功させた実績に注目いたしました。その結果、上記の3件の業績が今年度の日本イコモス賞にふさわしいものとして授賞者の決定をさせていただきました。なお日本イコモス奨励賞につきましては、今年度は残念ながら「該当業績なし」との結果となりました。

「日本イコモス賞 2021」の受賞者と受賞業績・授賞理由

「白川郷荻町集落の自然環境を守る会」

【受賞業績】

「世界遺産集落の半世紀にわたる創造的な保存活用の活動」

【受賞理由】

「白川郷荻町集落の自然環境を守る会（以下「守る会」）」は、1971年の会設立から今日まで、集落の自然環境と文化が一体となった保存活用を住民主体で続け、今年で設立から50年を迎える。

「守る会」の活動の歴史は、白川郷荻町集落が1995年に世界遺産に登録されるまでの住民主体の保存活動、そして登録されて以降、同集落に降りかかってきた難題を住民主体の努力によって解決してきた活動の両者からなる、世界遺産集落としての価値の維持・継承・発展の過程である。「守る会」設立から世界遺産登録に至



るまでの活動は、農山村における保存と活用を住民主体で実行してきた突出した先駆例である。高度経済成長下、過疎と電源開発による合掌家屋の消失・身売りが続くなか、「売らない・貸さない・こわさない」の保存の三原則を柱とした住民憲章に基づき、活用のための保存を推進してきた。「結」による屋根葺替の伝統の継承や民宿としての合掌造民家の活用は、1976年の重要伝統的建造物群保存地区への選定、そして世界遺産の登録へと結実する。一連の持続的な活動は、世界遺産集落というわが国が未経験であった状況を生み出すに至った。

世界遺産登録後には、想定を超える観光客の入込みによる交通渋滞と駐車場の増加等による景観破壊により集落が危機にさらされたが、「守る会」を中心とする住民間の粘り強い議論と官民協働による対策により、区内から観光車両を排除する交通システムを完成させ、景観を甦らせた。この過程は白川郷荻町集落の価値を維持・継承しながら世界遺産集落として発展させる創造的な過程であったと評価できる。

2020年以降、コロナ禍により集落も大きな打撃を被ったが、「守る会」が作り上げてきた集落の保存と活用のシステムが寸断されることなく、継続的に機能していることが確認された。これまでの「守る会」の活動の方向性の確かさが改めて確認されたものといえよう。

白川郷荻町集落は、日本の世界遺産の中でも登録による遺産への影響を最も深刻に受けてきた遺産の一つである。それだけに、遺産への影響への「守る会」の対応の歴史は、日本における世界遺産の保存継承を考える上で、得がたい先例となる。遺産影響評価が厳しく問われるようになってきた近年の世界遺産登録において、白川郷の経験はますます重要性を帯びてこよう。

「守る会」が設立から50年の節目を迎える本年は、世界遺産登録までの活動、そして世界遺産登録以降の活動を総括し、今後を見据えるに相応しい年である。日本イコモス国内委員会は、白川郷荻町集落の保存活用に関わるすべての人々の努力を讃えるとともに、その推進母体である「白川郷荻町集落の自然環境を守る会」に「日本イコモス賞2021」を授与するものである。

【活動の経緯】

- ・1971年 「白川郷荻町集落の自然環境を守る会」発足、「白川郷荻町集落の自然環境を守る住民憲章」制定
- ・1974年 荻町地区の伝統的建造物群保存対策調査実施
- ・1976年 「荻町伝統的建造物群保存地区」が重要伝統的建造物群保存地区に選定
- ・1980年 「荻町から看板をなくする運動」発足
- ・1982年 屋根技術保存組合の結成、「結」の技術指導と屋根葺工事の請負制の導入
- ・1984年 伝統的建造物群保存地区保存計画の見直し調査
- ・1995年 「白川郷・五箇山の合掌造り集落」が世界文化遺産に登録
- ・1997年 世界遺産登録以後の交通渋滞問題解決に向け「荻町交通対策委員会」設立
- ・2003年 荻町交通対策基本計画策定
- ・2008年 世界遺産マスタープラン検討住民会議からのマスタープランへの提唱
- ・2009年 保存地区内への通年大型車通行規制実施
- ・2010年 白川村世界遺産マスタープラン策定
- ・2011年 東海北陸自動車道全線開通
- ・2014年 保存地区内の通年観光車両交通制限実施



- ・2021年 「白川郷荻町集落の自然環境を守る会」 設立50周年
(出版物)
- ・白川郷荻町集落の自然環境を守る会編『白川郷荻町集落40年のあゆみ』白川村教育委員会、2011

「昭和女子大学 国際文化研究所」

【受賞業績】

「ベトナムの町並み保存支援と日本の町並み保存団体等との交流促進等長年にわたる文化財保存国際協力活動」

【受賞理由】

1990年、ベトナム政府より国際商業港ホイアン歴史地区の保存への協力要請を受けた文化庁は、事業着手にあたり、すでにベトナムとの種々の協力事業を行っていた昭和女子大学に協力を要請した。昭和女子大学はこれに積極的に応え、1992年に国際文化研究所を設立し、国内の関係機関、専門家との連携やNPO「日本建築」セミナー等の修復技術専門家の参加、国際協力機構（JICA）の支援等を受けて、文化庁とともに本格的に事業を開始、ホイアンの町並みの保存調査や技術移転をかねた修復事業を精力的に行った。これにより、ホイアンの多くの民家等が、文化財建造物としての精密な調査と高度な技術によって修復され、現地技術者・技能者等の知識や技術も大きく発展した。このホイアンの町並み保存協力事業は、ベトナム国内のみならず国際的にも高く評価され、1999年に「ホイアンの歴史的町並み」は世界文化遺産に登録された。

同研究所は、さらにベトナム各地の民家調査を開始し、2000年度からJICAの開発パートナー事業として、6省にわたる民家修復技術協力事業を展開した。ベトナム政府はこれらの成果をもとに、「伝統的集落の保存と活用」を国家目標のひとつとして掲げ、北部のドンラム（ハノイ市内北部）、中部のフクティック、南部のカイペー保存修復事業を計画した。同研究所は2002年より文化庁、奈良文化財研究所とともにドンラム村の集落調査を開始し、翌年より民家修復の技術支援等に継続的に協力してきた。これよりドンラム村は2005年にベトナムで初めての国家文化財集落（保存地区及び指定文化財群）に指定されている。これらについての同研究所の貢献は、文化庁等とともに、「ベトナム政府文化功労賞」「日本建築学会賞」数次にわたる「ユネスコアジア太平洋州文化財保存賞」等を受賞するなど、きわめて高く評価されている。

一方、町並み集落保存は、ベトナムにおける地域の経済や生活環境向上への貢献も期待され、同研究所はJICAや国際交流基金等の協力を受け、日本各地の伝建地区等保存団体との経験交流をコーディネートしてきた。具体的には、ホイアンでは2003年「第1回日本祭り」をプロデュースし、その後この事業は日本大使館に引き継がれて現在まで毎年実施されており、石見銀山、松阪、さらには京都西陣、神戸北野、日本橋地区の住民団体との交流に発展した。2017年に3番目の国家文化財集落に指定されたカイペーは、2013年に同研究所のプロデュースで「第1回カイペー祭」を開催し、これには横浜、神戸、長崎の住民団体が加わり、草の根市民交流を行った。以後、カイペーが所在するティエンザン省が2年に1度の大規模な祭りを継続している。このようなベトナムと日本の町並み保存にかかる市民交流は、両国の町並み保存の相互理解と発展に大きく寄与し、顔の見える国際交流として高く評価されている。同研究所は、コロナ禍にある現在も、オンライン会議等を駆使してホイアンの重要遺跡である

「日本橋」の本格的修復事業への技術協力、日本での展覧会開催、ドンラム村の衣食土産物開発、カイペー村の観光スポット開発調査準備等の事業を進めており、継続的な交流関係が構築されている。以上の国際協力事業については、多くの調査報告書や解説書、映像資料が、同研究所のホームページ上で、ダウンロード可能ファイルとして公開されており、その広範な成果の広報、普及に努めている。



以上、昭和女子大学国際文化研究所の約30年にわたるベトナムの町並み保存への学術的、技術的、市民運動的貢献と成果は極めて顕著であり、高く評価される。

日本イコモス国内委員会は、「ベトナムの町並み保存支援と日本の町並み保存団体等との交流促進等長年にわたる文化財保存国際協力活動」におけるすべての人々の努力を讃えるとともに、その中心となって長年積極的な活動を続けられてきた「昭和女子大学国際文化研究所」に「日本イコモス賞2021」を授与するものである。

【主な事業報告書】

- ・ 『ベトナム・ホイアン特集』 昭和女子大学国際文化研究所紀要Vol.1 (1994)
- ・ 『ベトナム・ホイアンの町並みと建築』 同上Vol.3 (1996)
- ・ 『ベトナム伝統住居の保存と再生』 同上Vol.5 (1999)
- ・ 『ベトナム伝統住居の体系的研究 I, II』 同上Vol.7,10 (2001,2005)
- ・ 『ハタイ省ドゥオンラム村集落調査報告書』 同上Vol.11 (2006)
- ・ 『開発著しいハノイ都市圏における近郊農村・下町・新住宅地の町づくり研究—生活調査と町づくり活動報告—』 同上Vol.13 (2009)
- ・ 『フックティック村集落調査報告書』 同上Vol.15 (2011)
- ・ 『ベトナム社会主義共和国ドンナイ省フーホイ村集落調査報告書』 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 (2013)
- ・ 『カイバー・ドンホアヒエップ村大富豪邸宅郡集落調査報告書』 昭和女子大学国際文化研究所紀要 Vol.20 (2014)
- ・ 昭和女子大学国際文化研究所カラーブック「ホイアン/HOIAN」「ドンラム村/DUONG LAM」「フクティック/PHUOC TICH」「カイバー/CAI BE」

「第16回 DOCOMOMO 国際会議 2020 東京 実行委員会」

【受賞業績】

「近現代建築遺産保存活動におけるコロナ禍のもとでの国際会議の実施」

【授賞理由】

DOCOMOMO (Documentation and Conservation of buildings, sites and neighborhoods of the Modern Movement)は、20世紀の建築において重要な位置を占めるモダニズム建築の保存・調査・研究を目的として設立された国際学術組織である。1990年にオランダのアイントホーヘンで設立総会(第1回国際会議)が開催され、その後世界的組織へと発展し、2000年には日本支部がDOCOMOMO Japanとして設立された。DOCOMOMO Japanの活動は、2000年に日本を代表するモダニズム建築を20件選定し、鎌倉近代美術館において「文化遺産としてのモダニズム建築展」を開催したことがスタートとなった。その後日本建築学会の中に設けられた選定委員会によって選定された作品が、毎年DOCOMOMO Japan選定建築として社会に公表され、対象建築の所有者には選定プレートが贈呈されている。2020年現在、DOCOMOMO Japan選定建築は合計250作品となっている。

今回の業績対象である「DOCOMOMO 国際会議 2020+1 東京」は、DOCOMOMO Japan 設立20周年となる2020年に、



「第16回 DOCOMOMO 国際会議」として計画されたものであったが、世界的なコロナ禍の影響で、2021年に延期、実施された。しかしコロナ禍における大会の準備には、極めて困難な状況が続き、リモートによる実行委員会では毎回多くの課題が提示され、真剣な議論が交わされた。そしてこの国際大会は、専門家だけでなく積極的に一般に開くことを念頭に「みんなの MOMO/Inheritable Resilience: Sharing Values of Global Modernities」をテーマとして設定し、2021年8月29日から9月2日まで会場での開催と Zoom を活用して行われた。

世界から寄せられた研究論文については、今までの大会で一番多い55カ国から600を超える論文が応募され、査読によって採用された16テーマ、261本の研究論文が、3日間にわたり56セッションに分かれて Zoom 上で熱心に議論された。また今まで西洋偏重であった DOCOMOMO の活動が、この大会を契機に、アジアも含む多様な文化の研究・議論の場へと変化したことも大きな意味がある。さらに研究論文のセッションと並行して、代官山ヒルサイドテラス（2020年度日本イコモス賞）をテーマに、世界各国から選出された学生と日本の学生計90名が20名のチューターの指導のもとにオンラインで議論を行い、文化遺産の保存と活用について、若者による国を超えた議論・提案が行われたことも、新たな文化遺産への視点を見出す意味でも極めて有意義であった。

この大会の前には国内において様々なプレ行事が企画され、また開会式に合わせ「国立西洋美術館世界遺産登録5周年記念講演会」、閉会式に合わせ「第1回国立代々木競技場世界遺産登録推進シンポジウム」が行われるなど、モダニズム建築のユネスコ世界遺産への登録における意味や課題を議論する場も設けられた。また今回の国際大会開催には、実行委員会（委員長：山名善之日本イコモス理事）はもちろん、名誉理事として河野俊行国際イコモス会長（当時）をはじめ、サポートする事務局にも多くの日本イコモス会員の貢献があり、DOCOMOMO Japan と日本イコモスという文化遺産に関わる二つの国際組織の、日本における活動協力という面でも大きな意味を持つ大会であった。

日本イコモス国内委員会は、「DOCOMOMO 国際会議 2020+1 東京」の開催におけるすべての人々の努力を讃えるとともに、常にその中心となって大会を成功に導かれた「第16回 DOCOMOMO 国際会議 2020 東京 実行委員会」に「日本イコモス賞 2021」を授与するものである。

【活動の経緯と記録】

(DOCOMOMO 国際大会の決定と実施)

- ・2018年8月 第15回 DOCOMOMO 国際大会（スロベニア）にて大会誘致プレゼンテーション
- ・2018年9月 東京大会開催決定
- ・2019年1月 実行委員会発足
- ・2020年5月 Covid-19 感染拡大防止のため大会の1年延期を決定
- ・2021年8月29日～9月2日「The 16th International Docomomo Conference Tokyo Japan 2020+1」開催
大会までの公開シンポジウム等
- ・2020年5月～2021年4月 国際オンラインディスカッション 全4回
- ・2020年5月～2021年8月 MOMO 折り紙建築 世界各国の近現代建築64作品をSNSで紹介
- ・2020年5月～2021年4月 Docomomo Virtual Tour 世界の近代建築のバーチャルツアー
大会期間におけるシンポジウム、研究会等
- ・国立西洋美術館世界遺産登録5周年シンポジウム「みんなのル・コルビュジェ」2021年8月29日
- ・オンラインセッション（世界55か国をつなぐリモート研究発表会） 2021年8月30日～9月1日



ICOMOS Japan

プレスリリース

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

解禁日時：2022年1月28日（金）

・ 第1回国立代々木競技場世界遺産登録推進シンポジウム 2021年9月2日
(出版物)

・ 大会研究発表会論文集

The 16th International Docomomo Conference Tokyo Japan 2020+1 Proceedings

Inheritable Resilience: Sharing Values of Global Modernities (English Edition) Volume 1~4

Publisher: docomomo International, docomomo Japan

Distributor: Echell-1

Editors: Ana Tostões, Yoshiyuki Yamana

ISBN: 978-4-904700-75-4 TOKYO, 29 August, 2021 発行 形式:印刷版、Kindle 版

《本件に関するお問合せ先》

日本イコモス国内委員会事務局 担当：矢野/田原

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5 岩波書店一ツ橋ビル 13F 文化財保存計画協会気付

E-mail: jpicomos@japan-icomos.org